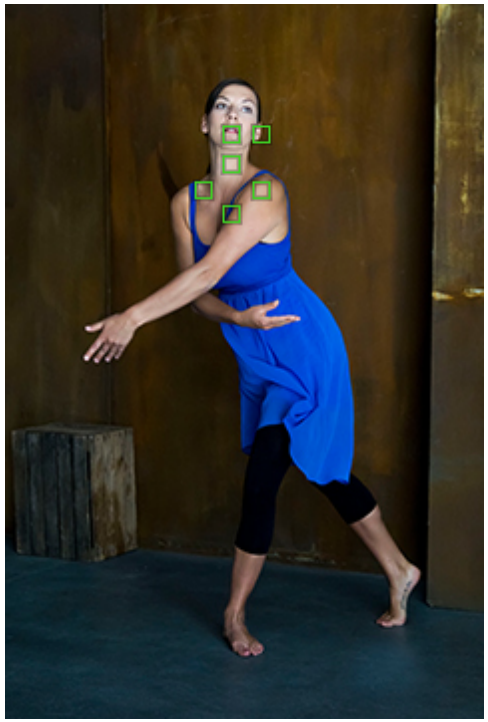
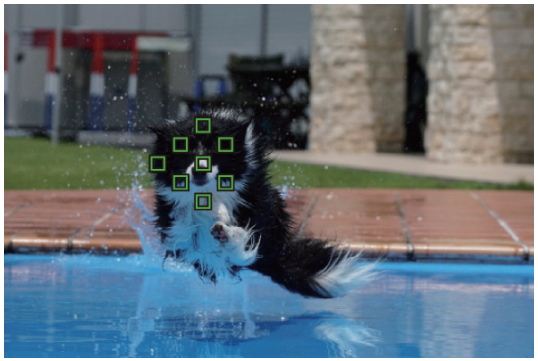
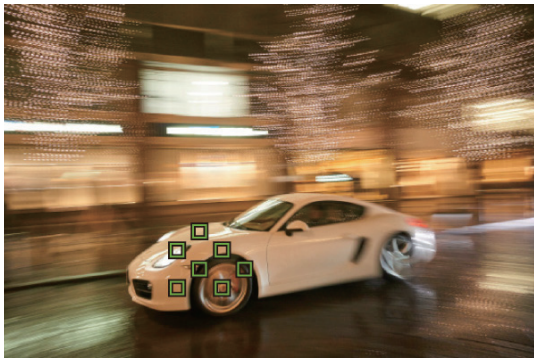
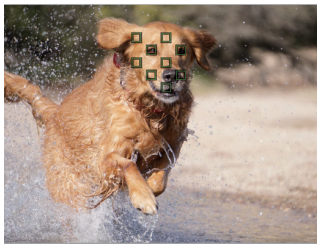
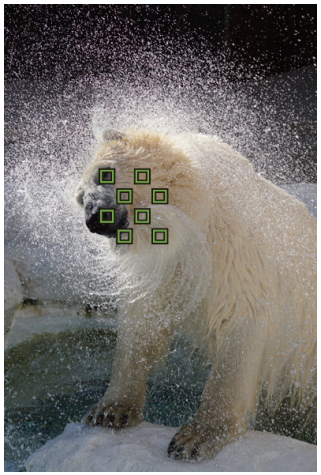
SONY




AF設定ガイドブック

AF機能の活用方法を解説



α6000

SONY

・"α"はソニー株式会社の商標または登録商標です。
・このページに記載している他社の社名／製品名は、識別するためだけに使用しています。社名／製品名は、その会社の商標または登録商標です。
・画面の表示や効果は機能を説明するために使用しており、実際と異なる場合があります。

The Power of Imaging

Contents

AF設定ガイド

P.3 | **基本設定** | 動いている被写体を撮影する場合に汎用性の高い基本的な設定

P.5 | Case 1 | 撮影する被写体の動きが速く、ピントを合わせ続けるのがむずかしいとき

P.7 | Case 2 | ピンポイントで被写体を狙うとき

P.9 | Case 3 | 上下左右に小さく動く被写体にピントを合わせるとき

P.11 | Case 4 | 瞳にピントを合わせて人物を撮影するとき

P.13 | Case 5 | 予測しづらい動きをする被写体を撮るとき

P.15 | Case 6 | スピード感のある写真を撮影したいとき（流し撮り）

P.17 | Case 7 | 狙った位置にピントを合わせるとき（背景ぼかし）

動画AF設定ガイド

P.19 | **動画撮影** | 人物の顔にピントを合わせるとき

P.20 | **動画撮影** | フォーカスポイントを奥から手前に移動させるとき（ピン送り）

使いこなし

P.21 | Fn（ファンクション）ボタンですばやく設定を呼び出す

P.22 | コントロールホイールの中央ボタン［スタンダード］機能の活用

各種設定の説明

P.23 | 撮影モード・フォーカスモード

P.24 | フォーカスエリア

動いている被写体を撮影する場合に汎用性の　高い基本的な設定

基本となる5つのおすすめ設定

この設定は動きのある被写体を撮影するときに広く活用することができる設定です。動く被写体に対し、画面の広範囲で捉え、高速AF性能と精度の高いAF追従性で正確にピントを合わせます。

撮影モード

シャッター速度を任意に設定できるSモードに設定します。





ドライブモード

シャッターボタンを押している間、連続して撮影する［連続撮影］に設定します。





フォーカスモード

シャッターボタンを半押ししている間中、動いている被写体にピントを合わせ続ける［AF-C］に設定します。





シャッタースピード

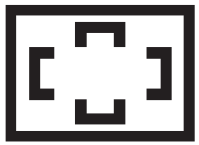
被写体ブレをしないよう、1/500秒以上の速いシャッタースピードに設定します。





フォーカスエリア

フレーム全体のどこでも自動でピントを合わせる［ワイド］に設定します。





Case 1

撮影する被写体の動きが速く、ピントを合わ　せ続けるのがむずかしいとき



瞬間的な動きをするゴールキーパーをCase1の設定で撮影しました。
シャッタースピードを速くし、連続撮影で決定的な瞬間を捉えます。

おすすめ設定



撮影モード：**シャッタースピード優先**
ドライブモード：**連続撮影**
フォーカスモード：**AF-C**
フォーカスエリア：**ワイド**
顔検出：**オフ**
ロックオンAF：**オフ**
シャッタースピード：**1/500～1/2000秒**

設定のポイント

撮影する被写体の動きが速く、被写体を追い続けるのが難しいときや、被写体の手前を障害物が横切るような場合に効果的な設定です。
被写体を常に捕捉し続けられるように、フォーカスモードは[AF-C]にセットします。
フォーカスエリアは[ワイド]にして、画面のどこでもピント合わせができるようにセットします。
複数の顔が入り込んでくるようなスポーツを撮る場合、狙いの人物のところにピントが合わなくなる可能性があるので、顔検出は[オフ]にします。

障害物が入るときは、ロックオンAFを設定する

ポイントとなる被写体が複数ある場合、AF枠が外れることがあります。そんなときはロックオンAFがおすすめです。ロックオン時のAF枠は四角い白の二重線で表示され、一度ロックオンすれば、狙った被写体にピントを合わせ続けます。被写体がフレームアウトしても、再度被写体が現れるとピントを合わせます。



ロックオンAF設定方法

1 MENU→ (撮影設定)→[ロックオンAF]→[入]を選ぶ

2 ターゲット枠を被写体に合わせて、コントロールホイール中央のボタンを押す

ロックオンAF機能をよく使用する場合の簡単設定



ロックオンAFを[入(シャッター半押し開始)]に設定すれば、シャッターボタンを半押しするだけでロックオンAFが起動します。
シャッターボタンを半押ししている間、緑の二重線で囲まれた被写体にピントを合わせ続けます。
([AF-C]でのみ有効)

※説明のため画像はイメージです。

Case 2

ピンポイントで被写体を狙うとき



水しぶきや手にピントが引っ張られないようゴーグルにピントを合わせ、連続撮影で息継ぎの瞬間を捉えます。
被写体はゴーグルをしているケースが多いので、顔検出は[オフ]にします。

おすすめ設定



設定のポイント

動いている被写体をカメラで追い続ける場合、フォーカスモードは[AF-C]にセット。
フォーカシングが惑わされるような場面では、フォーカスエリアは[フレキシブルスポット]でピントを合わせる場所を狭めておきます。Sサイズを選ぶとより細かな部分にピントを合わせることができますが、その範囲内に検出できる被写体のコントラストがない場合にはピントが迷いやすくなります。被写体に応じてフレキシブルスポットのサイズを設定しましょう。

シャッタースピードを速くして、水しぶきをシャープに撮影する

1/1000秒以上など、できるだけ速いシャッター速度を選択すれば、水しぶきの一粒一粒がシャープに描き出されます。

フレキシブルスポット測距枠移動方法

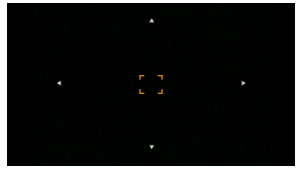
1 Fnボタンを押す



2 [フォーカスエリア]を選択し、コントロールホイールを回して[フレキシブルスポット]を選択



3 ピントを合わせたい場所に測距枠を移動



※説明のため画像はイメージです。

Case 3

上下左右に小さく動く被写体にピントを合わ　せるとき

動感描写のために、波打つ衣装をしっかりと写し止めたいので、シャッター速度は1/500秒を選択しました。



おすすめ設定

撮影モード：**シャッタースピード優先**
ドライブモード：**連続撮影**
フォーカスモード：**AF-C**
フォーカスエリア：**ゾーン**
顔検出：**オン**
ロックオンAF：**オフ**
シャッタースピード：**1/500～1/1000秒**



設定のポイント

波打つ衣装をしっかりと写し止めたいので撮影モードは、シャッタースピード優先します。
フォーカスエリアは［ゾーン］を選択。ダンサーの顔が画面上部に位置するケースがほとんどなので、［ゾーン］を上部に設定するとその中で自動でピント合わせをします。
ダンサーの表情までくっきり描き出したい場合は、顔検出を［オン］にセットしておくのがおすすめです。

ゾーン測距枠移動方法

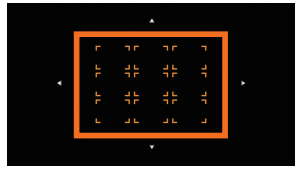
1
Fnボタンを押す



2
［フォーカスエリア］を選択し、コントロールホイールを回して［ゾーン］を選択



3
ピントを合わせたい場所に測距枠を移動



※説明のため画像はイメージです。

Case 4

瞳にピントを合わせて人物を撮影するとき



ポートレート撮影は瞳にピントを合わせるのが基本。
絞りを開いて背景をぼかし、瞳AFで手前の瞳にピントを合わせて撮影しました。

おすすめ設定



設定のポイント

動いていない人物を撮影する場合、フォーカスモードは[AF-S]にセット。ピピッと音を立ててピントが合ったことを知らせてくれる(無音設定にすることも可能)モードです。
フォーカスエリアは[ワイド]、顔検出は[オン]にセットし、瞳AF機能を利用して撮影すると便利です。
撮影モードは、F値を任意に設定できる[絞り優先(Aモード)]を選択。適正な明るさになるように、シャッター速度とISO感度はカメラで自動的に設定されます。

瞳AFでピントを合わせる

瞳AFの機能を使えば自動で手前の目にピントを合わせることができます。
[瞳AF]はボタンに機能を割り当てることで機能が使えるようになります。

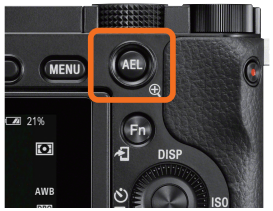
[瞳AF]割り当て方法

1

MENU→⚙(カスタム設定6)→[カスタムキー設定]を選ぶ

2

希望のボタンに[瞳AF]を設定。シャッターボタンと同時押しするのでAELボタンに設定するのがおすすめです。



撮影手順

1

[瞳AF]の機能を割り当てたボタンを押し続け、目に小さな緑の枠が表示されることを確認します。

ヒント シャッターを切るまで[瞳AF]のボタンは押したままにします。

2

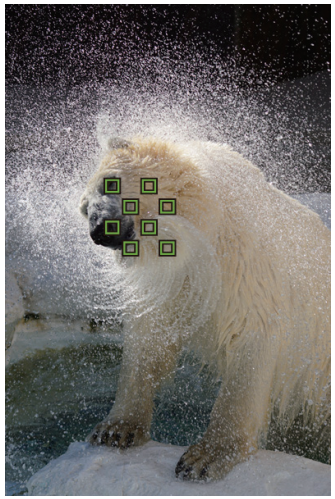
小さな緑の枠が消えても目にピントは合っているので、[瞳AF]のボタンを押したまま、シャッターボタンを押します。

※説明のため画像はイメージです。

Case 5

予測しづらい動きをする被写体を撮るとき





犬は元気に走ると想像以上に速いので、1/500秒以上のシャッター速度でドライブモードは[連続撮影]にセットし撮影します。

左の写真は、高速シャッターで水しぶきをしっかり止めて撮影しています。
シャッタースピードは、1/1250秒を選択しています。

おすすめ設定

撮影モード:**シャッタースピード優先**
ドライブモード:**連続撮影**
フォーカスモード:**AF-C**
フォーカスエリア:**ワイド**
顔検出:**オフ**
ロックオンAF:**オフ**
シャッタースピード:**1/500秒～**



設定のポイント

動きを予測しづらい動物撮影のおすすめ設定は、フォーカスモード:[AF-C]、フォーカスエリア:[ワイド]。ピント合わせはカメラ任せにして、シャッターチャンスを重視します。
撮影モードは、シャッタースピードを任意に設定できる[シャッタースピード優先(Sモード)]を選択。適正な明るさになるように、絞り(F値)とISO感度はカメラで自動的に設定されます。
ピントが合っていたとしてもシャッター速度の設定を誤ると、ブレた失敗写真になってしまいます。
シャープな写真に仕上げるには、できるだけ速いシャッター速度がおすすめです。



1/100秒で失敗

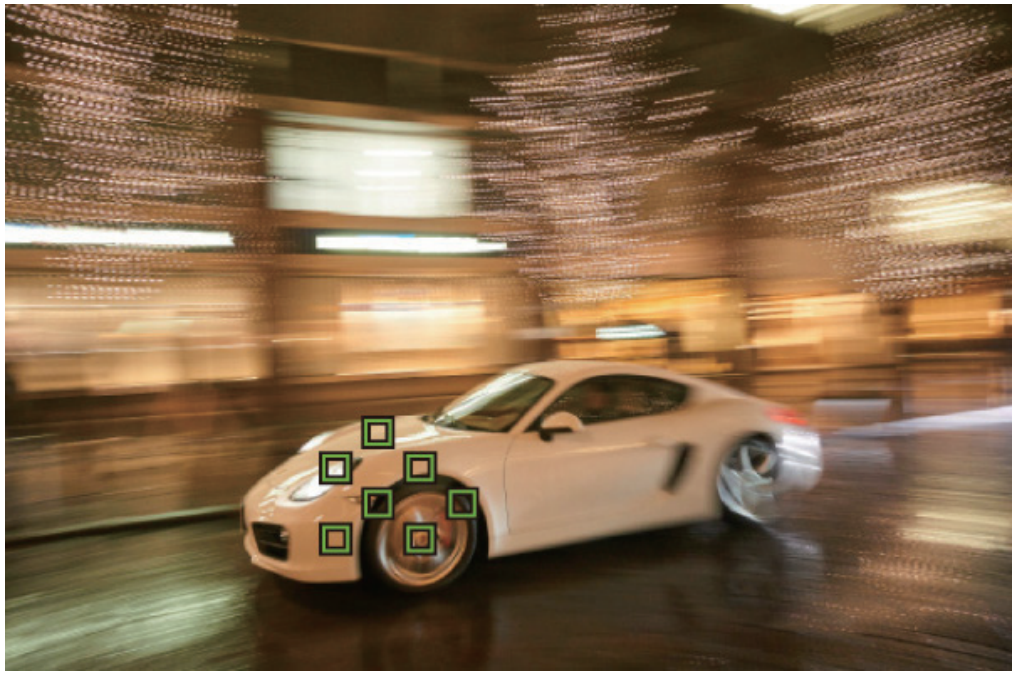


1/800秒で成功

※説明のため画像はイメージです。

Case 6

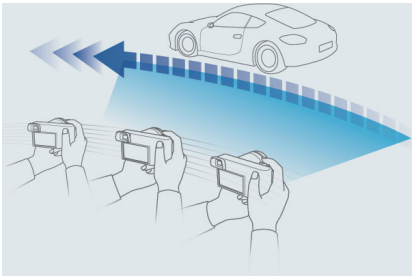
スピード感のある写真を撮影したいとき（流し　撮り）



流し撮りの場合はシャッタースピードが重要になります。
シャッタースピードを1/10秒に設定し、クルマの前輪上部にピントを合わせて撮影しました。

撮影方法

流し撮りはクルマの動きとシンクロするように、カメラを左右に振りながら撮影します。シャッターを切る前から追い続け、シャッターを切ったあともそのままカメラを振り続けるのが成功のポイントです。



おすすめ設定



設定のポイント

撮影するクルマに対しピントを常に合わせ追い続けたいので、フォーカスモードは［AF-C］にセットします。フォーカスエリアは［ワイド］。およその仕上がり構図を事前に決めておける場合は、構図に応じて［中央］や［ゾーン］でもかまいません。

撮影モードは［シャッタースピード優先（Sモード）］にします。シャッタースピードは1/10～1/100秒が目安となります。

※説明のため画像はイメージです。

Case 7

狙った位置にピントを合わせるとき（背景ぼ　かし）



マクロレンズ（E30mm F3.5 Macro）を使って、絞り値をF4.5 に設定し撮影しました。



絞り値をF5.6に設定し撮影。
窓から差し込む光を利用して撮影しました。

おすすめ設定



設定のポイント

フォーカスモードは［AF-S］にセット。フォーカスエリアは画面のほぼ全域の中からピンポイントでピント合わせができる［フレキシブルスポット］を選択します。
絞り値を小さくし前景や背景をぼかして撮影できます。

絞り値の簡単設定方法

撮影モードを［絞り優先（Aモード）］に設定しているときは、コントロールダイヤルまたはコントロールホイールを回すだけで簡単に絞り値の変更ができます。



※説明のため画像はイメージです。

Movie 人物の顔に安定してピントを合わせるとき



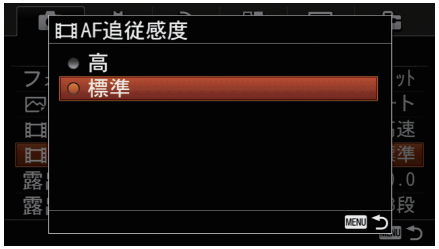
おすすめ設定

フォーカスモード:**AF-C**

フォーカスエリア:**ワイド**

AF追従感度(動画):**標準**

顔検出:**オン**



設定のポイント

顔にピントを合わせ続けたい場合は、フォーカスエリアを[ワイド]に設定し、フォーカスエリア枠と顔検出枠が重なるようにします。
また、[個人顔登録(新規)]であらかじめ顔情報を登録しておくと、[顔検出/スマイルシャッター]が[入(登録顔優先)]のときに、登録された顔を優先して顔検出を行います。
複数の顔を登録したときは、登録した順で優先順位が設定されますが、[個人顔登録(優先順序変更)]で優先順を変更することができます。
AF追従感度(動画)はピントが障害物に移ってしまわないよう[標準]に設定します。

Movie フォーカスポイントを奥から手前に移動させるとき(ピン送り)



おすすめ設定

フォーカスモード:**AF-C**

フォーカスエリア:**フレキシブルスポット**

AF追従感度(動画):**標準**

顔検出:**オン**



設定のポイント

奥から手前に、または手前から奥にピン送りをしたい場合は、フォーカスエリアを[フレキシブルスポット]または[ゾーン]に設定します。意図した箇所にピント合わせができるので、動画撮影中測距枠を移動させるだけで滑らかなピン送りができます。
AF駆動速度(動画)を、撮影シーンによって変更します。動きの速いスポーツシーンなどでは[高速]にします。テーブル上に配置した物の間でピントを移動するときは[低速]にすると、印象的な映像になります。

※説明のため画像はイメージです。

Fn（ファンクション）ボタンで すばやく希望の設定を呼び出す

Fnボタンとは、あらかじめ登録した機能を呼び出すボタンです。
Fnボタンを押すと撮影画面上に登録した機能が表示され、設定したい機能にすばやくアクセスできます。
Fnボタンには12個まで機能を登録することができます。
よく使う機能をFnボタンに登録しておくと便利です。



Fnボタンで設定を変更する

1 Fnボタンを押すと登録した機能が表示
コントロールホイールの上下左右ボタンで機能を選ぶ



2 コントロールホイールを回して設定を変更



Fnボタンに好みの機能を登録する

1 MENU→（カスタム設定）→［ファンクションメニュー設定］を選ぶ



2 希望の場所を選び、機能を登録する



コントロールホイールの中央ボタン ［スタンダード］機能の活用

［スタンダード］は、フォーカスエリアを素早く移動したり、固定するのに便利な機能です。
初期設定でコントロールホイールの中央ボタンに設定されています。ほかのキーに割り当てることはできません。フォーカスエリア設定によって使用方法が変わります。

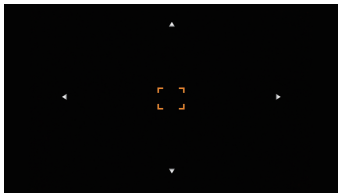
［スタンダード］機能の使用方法

［フレキシブルスポット］または［ゾーン］の場合

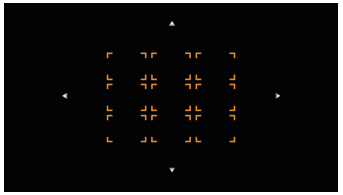
コントロールホイールの中央ボタンを押すと測距枠の位置が移動できる状態になります。
上下左右ボタンで測距枠の位置を移動します。



［フレキシブルスポット］の画面



［ゾーン］の画面



［ワイド］の場合

コントロールホイールの中央ボタンを押すと一時的に中央一点に測距枠が固定されます。
フォーカスモードが［AF-C］に設定されている場合は、［AF-S］に切り換わります。
ピントが合ったら中央ボタンを押したままシャッターを切ります。





※説明のため画像はイメージです。

各種設定の説明

撮影モード

P（プログラムオート）

露出（シャッタースピードと絞り）はカメラで自動的に設定されるモードです。ホワイトバランスやISO感度などの撮影機能は任意に設定できます。

A（絞り優先）

F値を任意に設定できるモードです。適正な明るさになるように、シャッター速度とISO感度はカメラで自動的に設定されます。人物や花、食べ物などの撮影で前後をぼかしたいときに適したモードです。

S（シャッタースピード優先）

シャッター速度を任意に設定できるモードです。適正な明るさの写真になるように、絞り(F値)とISO感度はカメラで自動的に設定されます。
動きの速いスポーツや動物をブレずに写したり、水や光の軌跡を写したいときに適したモードです。

フォーカスモード

AF-S（シングルAF）

ピントが合った時点でピントを固定するモードです。風景や花、止まっている人物など動きのない被写体のときに適したモードです。

AF-C（コンティニュアスAF）

シャッターボタン半押しの間、ピントを合わせ続けるモードです。動いている被写体をカメラで追い続けるときや、動きが予測しづらい被写体のときに適したモードです。

AF-A（AF制御自動切り換え）

被写体の動きに応じて、[AF-S]と[AF-C]が切り替わるモードです。
シャッターボタン半押しで、被写体が静止していると判断したときはピント位置を固定し、被写体が動いているときはピント合わせを続けます。

DMF（DMF）

オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動で微調整できるモードです。最初からマニュアルフォーカスでピントを合わせるよりもすばやくピント合わせができ、マクロ撮影などに便利です。

MF（マニュアルフォーカス）

手動でピントを合わせるモードです。

フォーカスエリア

ワイド



モニター全体を基準に、自動ピント合わせをします。静止画撮影でシャッターボタンを半押ししたときには、ピントが合ったエリアに緑色の枠が表示されます。
子供や動物、スポーツなど、動きの予測がつきにくいときに適しています。

ゾーン



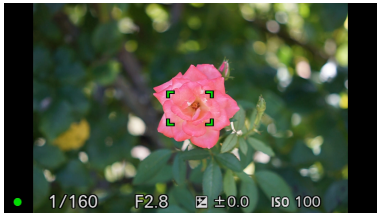
モニター上でピントを合わせたいゾーンの位置を選べます。選択した位置には、グレーの枠が表示されます。ゾーンは9個のフォーカスエリアに分かれており、その中でピントを合わせるエリアが自動的に決定されます。
ピントを合わせる位置がおおまかにわかっている場合に適しています。

フレキシブルスポット



[フレキシブルスポット]はモニター上の好きなところに測距枠を移動できる設定です。測距枠のサイズは被写体に合わせてS,M,Lから選択ができます。
被写体の一部分にピンポイントでピント合わせができるため、狭い部分のピント合わせや、障害物にピントが合ってしまうときに適しています。

中央



モニター中央付近の被写体に自動ピント合わせをします。フォーカスロックと併用して好きな構図で撮影する場合に適しています。

※説明のため画像はイメージです。